

1 東京工業大学 情報理工学院 数理・計算科学系
Department of Mathematical and Computing Sciences,
School of Computing, Tokyo Institute of Technology
2 株式会社 YY セキュリティ研究所
Security Laboratories, YY Corporation
†1 現在, 国立研究開発法人 ZZ 研究所
Presently with National Institute of ZZ
a) sugata.d.aa@m.titech.ac.jp

3. 事前実験？

デモデータを使って実験して、提案アルゴリズムに説得力を持たせる

4. 結果と考察

(本論文のメイン)

4.1 実験方法

4.1.1 実験環境

他の人が再現できるように実験環境を書く. 1. 特徴量エンジニアリングの比較 2. 判定の組み合わせアルゴリズムの比較

4.1.2 データセット

使用したデータセットの概要と、その妥当性について述べる.

4.1.3 評価指標

使用した評価指標と、その妥当性について述べる.

4.2 結果

実験の結果、得られるデータから読み取れる客観的事実を書く. この時、論文の目的を達成するためにどのような主張をどのような結果（データ）に基づいて説明すべきかを考える.

4.3 考察

4.3.1 本論文における目的に即した結論を導く

- 本結果を一般化したどのような結論を導き出せるかを、論文の目的に即して述べる. 1. このくらい有効特徴量あればいける 2. iforest ではうまくいく
- 実験結果の妥当性を説明する.

4.3.2 結果から予測される問題を提起する.

- 結果が生じた理由について考察する. 1. 2. グラフの分布を見ると、縦横で切るより斜めで切ったほうがいい
- 本実験結果を認めると、どのような現象の予測や応用可能性があるかを述べる. 1. 2. より良い局面、より良いアルゴリズムがあるかも

5. おわりに

おわりにを書く.

謝辞 謝辞を書く.

参考文献